

写

受理番号	陳情第9号
受理年月日	令和4年8月9日

陳 情 書

令和4年8月9日

二宮町の魅力づくりの核となる東京大学果樹園跡地の将来の方向性と
そのための近代建築物の活用を求める陳情

二宮町議会議長
善波 宣雄 様

陳情者 二宮町二宮 1931-3
まちづくり工房「しお風」及び二宮遊学の衆
代表 神保智子

【陳情趣旨】

日頃からまちづくり工房「しお風」と二宮遊学の衆が行っている東京大学果樹園跡地再生活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

東京大学果樹園跡地は、海底が隆起してできたという二宮の大地の成り立ちがわかる貝化石を含む地層「二宮層群」が広がり、古墳時代頃に栄えていたことがわかる貴重な出土品がでた諏訪脇横穴墓群があります。

大正4年からは園田孝吉男爵の別荘、大正12年の関東大震災で亡くなった後大正15年に、東京に近く、しかもみかんの経済的栽培が可能であることから、東京帝国大学が果樹園を設置し、平成20年まで開園していたアカデミックな場所です。果樹園時代の建物が20棟と様々な果樹園も現存し、そのうち大正、昭和初期の近代建築物が11棟もあります。

まちづくり工房「しお風」が再生活動の提唱、情報拡散、昨年3月に発足した二宮遊学の衆が現場で具現化を担っています。昨年度からテーマに沿った町歩きツアー、様々な調査、果樹や野草等の保全、花壇等の再整備、手押し井戸ポンプの設置と井戸から池へと続く水路の発掘と再生、それらをつなぐ散策路の整備、簡易解説板の設置などを実施し、現在奥の水路と湿地のある棚地で多様な生物の生息場所の整備を進めています。

こうした中で5月下旬から6月にかけて沢蟹、ヤマアカガエル、カワニナの生息確認、6月29日に環境省のレッドリストの準絶滅危惧種に登録されたタシロランも発見しました。

こうした私たちの実践を通して分かった跡地の特徴は、次の通りです。

- ① 様々な種類の果樹が現存
- ② 東京大学果樹園時代に積極的に外来種を植えたこともあり、樹木も野草も固有種と外来種が共存
- ③ 季節の移ろいに合わせて、葉、花、実が彩ります。
- ④ 二宮の大地の成り立ちからその後の発展がわかる様々な時代の遺跡が現存
- ⑤ 湧水、池、水路、湿地など水の豊かな場所
- ⑥ 東京大学二宮果樹園が大正15年から平成20年まで82年間開園していたアカデミックな場所
- ⑦ 東京帝国大学が東京に近く、しかもみかんの経済的栽培が可能という国策としての産業振興と二宮が特産品として産業振興させようということから誘致し、その遺構が現存する産業遺跡として貴重な場所

そして、活用コンセプトは「子どもと共に大人も楽しみ学べる場」です。

活用コンセプトと跡地の特徴から、私たちがの跡地のプランニングもしています。

多様な生物が補完し合って共に成長。人も自然も建築物も共に調和し、二宮の歴史や文化、生物を人はここで学びながら成長する。そして、人が成長することで保全が進む持続可能な社会のモデルケースが作れたらと考えました。

このようなことから、跡地内に簡易解説板や樹木や野草の名札を設置しながら、散策路、ピオトープなど多様な生物の生息場所も整備し、郷土を知る「水と緑の時空エコミュージアム」づくりを進めようとしています。

エコミュージアムは文部科学省が提唱している事業です。エコミュージアムとは「ある一定の文化圏を構成する地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられています。そして、その運営は、住民参加を原則とし、普通の博物館と違って対象とする地域内にコアと呼ぶ中核施設(情報・調査研究センター)と、自然・文化・産業などの遺産を展示するサテライト(アンテナ)、新たな発見を見い出す小径(ディスカバリートレイル)などを配置し、来訪者が地域社会をより積極的に理解するシステムで行われています。

日本では、エコミュージアムの持つ「まちづくり」の効果が重視されています。それは、生活の舞台である地域と個々の住民の生活とが絶縁した状態が一般化している現代において、「地域を知る」というエコ・ミュージアムの根源的な要素が住民の地域への愛着を醸成し、住民の地域社会への積極的な参加を促すことにつながると共に、交流人口も増やし、コミュニティツーリズムなどで活性化にもつながると考えているからです。

二宮町は消滅可能性都市で、コロナ、地球の存亡に係る世界情勢の不穏さの加速により自治体経営が危機的な状況に陥る懸念もあります。その中で地方創生するには、「居たいと思わせる他にはない魅力的な自治体」にすることが重要だと思います。

二宮町の豊かな歴史や自然を生かし、跡地を核とした二宮町の独自の魅力を創りあげ、伝えることは町民の心も財産も豊かにし、地方創生の重要な潜在資源となります。

跡地には東京大学果樹園跡地活用協議会の遊学文化部会として、敷地の整備に関わることはできますが、建物の活用について関わることは難しい状態です。

跡地を交流拠点、町の情報発信拠点として行くために、建物の一部を開放し、インフォメーションセンターと屋外から見る展示ルームとしての活用を考えています。

こうして施設が活用されることで、町の魅力の情報発信力が増し、交流人口が増え、協力や連携するボランティアはもちろん民間や専門家も出てくると思います。

このようなことから、ビジョンや信念を持たずに現状のまま何もせずに、二宮町独自の魅力を失うことを防ぐために、次の項目を陳情いたします。

【陳情項目】

1. 地域創生につながる東京大学果樹園跡地の将来の方向性を郷土を知る「水と緑の時空エコミュージアム」づくりを踏まえながら、住民参画で早急に明らかにすることを求めます。
2. 旧実験室をインフォメーションセンター、旧収納舎を屋外から見る展示ルームとして開放し、活用していくことを求めます。

以上